

ウェザーニューズ、放送気象チームが一年を振り返り 「2019年気象10大ニュース」を発表

株式会社ウェザーニューズ（本社：千葉市美浜区、代表取締役社長：草開千仁）は、放送気象チームが選ぶ「2019年気象10大ニュース」を発表しました。10の事象は、全国の放送局向けに気象サービスを運営、提供している放送気象チームが、日本で発生した気象を中心とした自然災害の中から、被害や影響の大きさ、また、テレビ報道での注目度などを加味して厳選しました。

内容を見ると、まだ記憶に新しい台風19号、台風15号など台風に関するニュースが目立っています。2019年は台風が平年よりも多い年で、元日に統計史上最速で台風1号が発生してから、11月までの発生数は28、接近数は15、上陸数は5となりました（平年値は各24.3、11.3、2.7）。また、日本付近の海面水温が平年より高くなったことで、強い勢力を維持して接近・上陸した台風が多かったことから、台風による甚大な被害が相次ぎました。

放送気象チームは、来年も減災・防災につながるニュースコンテンツをいち早く発信していきます。



台風19号 (10月10日～13日)

10月、箱根で1日に1000ミリ近い雨を観測。千曲川など、一級河川を含む堤防の決壊が相次いだ。交通機関やコンビニなどで計画運休、休業が実施された。

台風15号 (9月8日・9日)

関東では過去最強クラスの上陸台風。千葉市では観測史上1位の風を記録し、大規模な停電が発生した。首都圏のJR全線で計画運休を実施。

台風10号 (8月15日・16日)

8月15日に広島県呉市付近に大型のまま上陸し、お盆休みを直撃。西日本を中心に交通に影響し、お盆休みのリターン時期と重なった。

九州 梅雨の大雨 (7月初旬、7月20日頃)

7月のはじめは梅雨前線による記録的大雨。7月20日は台風5号の間接的影響で、長崎県五島と対馬市に大雨特別警報が発表された。

記録的に遅い梅雨入り (6月26日頃)

九州北部から近畿の梅雨入りは史上最も遅い梅雨入りに。梅雨は西日本を飛び越え東北が先に梅雨入りする異例のパターンだった。

新潟・山形地震 (6月18日)

6月の山形県沖を震源とする最大震度6強の地震では、日本海側で11センチの津波も観測。

九州北部大雨 (8月28日頃)

8月の下旬に前線による大雨。28日に佐賀、福岡、長崎に大雨特別警報を発表した。人的被害やライフラインへの被害発生。

“北”で異常な暑さ (5月26日、8月14日・15日)

5月は全国的に暑く、北海道の佐呂間では26日に39.5度まで上がり5月の全国の最高気温を更新。8月には新潟・石川・山形の6地点で40度以上を観測。

全国初 警戒レベル「4」 (6月7日)

降り続く雨で、5段階の警戒レベルで、2番目に高い「警戒レベル4」が6月7日に全国で初めて広島県に発表された。

台風20号・21号 (10月25日頃)

台風15、19号の影響や被害が長引く中、20、21号の間接的影響と10月下旬は低気圧の影響もあり千葉・福島で豪雨。養老川など15河川で氾濫。